

顎顔面矯正フォローアップセミナー お知らせとお願い

重要

(株) デンタリード
大阪市淀川区新高 1-1-15
TEL:06-6396-4448 FAX:0120-24-0892

顎顔面矯正治療法セミナーは 2014 年現在、7 年目を迎えることができ、受講していただいた先生は 350 名を超えました。近年、ベーシックセミナーを含めた各種セミナーは満席となることも多く、先生方にはご不便ご迷惑をおかけしていることも多々あるかと存じます。今後、弊社としましても多くの先生方にセミナーにご参加頂ける様、黒江先生のご協力の元セミナーの企画に努める次第であります。

今回のお知らせは、フォローアップセミナーにおける資料のまとめ方についてお願いです。本セミナーは、先に記述しました様に毎回多くの先生方がご参加され、1 日を通して症例相談が行われております。現在の症例相談のスタイル（資料のまとめ方）は多種多様であり、場合によっては資料が不十分で解説に時間を要し、黒江先生も困惑されるケースが見受けられます。黒江先生に適切なアドバイスをいただく為にも、また、ご参加された他の先生方にも見やすく知識を共有出来る様、今一度、資料のまとめ方を見直していただきたくご案内差し上げた次第です。

症例を丁寧に分かり易くまとめる事は、先生方ご自身の矯正治療の向上、患者様に対する適切なコンサルに繋がると黒江先生も常々仰られています。先生方におかれましてはご多忙の中、ご苦勞をおかけすることになりますが、今後のフォローアップセミナーの速やかな進行の為にも、資料作りのある程度の統一化を図りたいと思います。何卒ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。別紙をご参考の上、今後のフォローアップセミナーにおける資料作り（スライド作成）にお役立てください。

(株) デンタリード

顎顔面フォローアップセミナー 症例相談スライド作成のポイント

スライド作成のポイント

- 1、スライドは Power Point あるいは keynote で作成
→WinCeph、word、写真のスライドショー等はお控え下さい（まとめ方によります）
- 2、写真の大きさや配置 上下左右の回転/反転やミラー像
→バラバラだと非常に見づらくなります
- 3、過度なアニメーションは控える
→スライドを戻したり進めたりする際、必要以上に時間がかかってしまいます
- 4、見やすいレイアウト
→スライド順番の統一や、決まった位置に文字を記載する事により目移りが減ります
- 5、文字情報は簡潔に見やすく 箇条書き
→長文を避け、フォントは適度なサイズと種類を使う

症例相談のポイント

- 1、初診時の必要な資料は揃っていますか？
→顔貌、口腔内、病歴、現症、主訴、レントゲン、機能検査資料、その他
- 2、相談の目的は明確になっていますか？
→何を相談したいのか？一つのスライドにまとめ、それに対するご自身の考えを必ず準備する
- 3、経過の長い症例について
→経過が一目で分かる様に整理しましょう
- 4、診断と治療計画、具体的な治療のスケジュール、治療経過の評価
→うまく行っているか？うまく行ってないか。あまり変わらないか。自分はどうのように考えるのか？その根拠？
…これは初診であっても経過症例であっても、必ず診断と治療計画、具体的な治療のスケジュールを明確にする。

パソコンの貸し出しについて

昨今、個人情報漏えいなどのニュースが見受けられます。PCをお持ちにならない先生方には、弊社社員のPCを貸し出しておりましたが、情報漏えい対策、セキュリティ対策、お互いの安全を考えた上でPCの貸し出しは、緊急の場合を除き今後お断りさせていただきます。ご面倒ですがパソコンをご持参の上ご参加ください。

★フォローアップセミナーは症例相談の場です。必要な情報を簡潔にまとめて臨みましょう！

★相談時間（20分前後）をお守り頂くようお願い申し上げます！！

顎顔面矯正における 不正要因の分析と治療方針

不正要因		治療方針
1. Skeletal 骨格	上顎：前後 側方 下顎：前後 側方	成長促進？成長抑制？
2. Functional 機能	前後・側方	どのような手段で解消可能か？
3. Discrepancy 歯と顎骨の不調和	TD (ALD・HPC) 第三大臼歯	非抜歯・抜歯（時期） 非抜歯・抜歯（時期）
4. Habitual 習癖	4. Habitual	Skeletal の改善で解消可能か？ 学習の必要性は？
5. Others その他	埋伏歯・先天欠如など 心理社会的要因など 他科との連携の必要性など	

顎顔面矯正治療計画

凡 例

1. 急速拡大装置による上顎の側方への成長促進
2. 腹式呼吸の訓練による呼吸の学習
3. 片足立ちによる姿勢維持の学習
4. 舌側弧線装置による下顎歯列の整直により上下顎の調和を図る
5. ガム咀嚼による咀嚼の学習
6. 機能的矯正装置による咀嚼筋と下顎位の学習、下顎の前下方への成長促進

※ベーシックコース第3回目「分析・診断・治療計画」シラバスより抜粋

今一度、上記内容をご確認いただき症例相談の資料作成にお役立てください。